

「ヤコブ 最初の殉教者」

2014年05月30日

ヤコブは、ガリラヤ湖の漁師であったゼベダイ家の息子で、ヨハネの兄です。ヤコブ、ヨハネ兄弟も主イエスの召しを受け、決断的に従っています。

ヤコブ、ヨハネ兄弟は、主イエスから「ボアネルゲス（雷の子ら）」というあだ名を付けられています。すぐに、ゴロゴロと怒り出す、激しい気性であったようです。主イエスの伝道団がサマリアに行った時、ガリラヤの民衆のように歓迎してくれなかったの、怒った二人は「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、焼き滅ぼしましょうか」と、とんでもない提案をしています。

そして、二人は野心家でした。主イエスは十字架の死を決意して、エルサレムに向かいます。マルコ福音書は、先頭に立って進まれる姿を見て、弟子たちは驚き、恐れたと書いています。エルサレムで起こる十字架と復活について、三回も予告したのですが、弟子たちは聞く耳を持っていませんでした。人は理解できないことや聞きたくないことには耳を閉ざします。弟子たちがそうでした。彼らは逆に、主イエスの厳しい姿から、エルサレムに上り、革命を起こし、ユダヤの王になると期待したのです。二人は、他の弟子たちを差し置いて、主イエスのところに来て「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが」と言います。主イエスは「何をしてほしいのか」と応じます。二人は「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」と、即ち、主イエスが王になった時、自分たち兄弟に左右の座に座る地位を約束してくださいと要望しています。主イエスは「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」と問われます。二人は高い地位が得られるならば、どんな苦勞もいとわないと、勢い込んで「できます」と答えます。すると主イエスは「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる」と言われます。ゼベダイ家は雇い人を持つ「網元」のような漁師でした。他の弟子たちより自分たちこそ、高い地位につくべき人間だと思っていたのです。主イエスは、どん底の十字架の苦難と死によって救いをもたらす出来事に耳をかさず、地位のみを求める野心家の二人に、どんなに悲しい思いをしたでしょうか。

怒ることに早かった野心家のヤコブは主イエスの十字架と復活を体験し、聖霊降臨によって、主イエスの救いを知らされます。最初に誕生したエルサレム教会で他の弟子たちと共に、宣教活動に参加していきます。当初、愛に満ち溢れたエルサレム教会は人々から信頼され、多くのクリスチャンを生み出していました。ところが、イスラエル人が魂のよりどころとしていたエルサレム神殿を否定し、モーセの律法も大切にしないと分かり、迫害を受けるようになりました。領主・ヘロデは民衆を喜ばせようと、ヤコブを捕え、剣で殺しました。ヤコブは、主イエスが「あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる」と言われた通り、12弟子の中で、最初に「苦い杯」を飲む殉教者になりました。教会は、ヤコブの殉教を主イエスの苦難と死につながるものとして、敬意をもって記憶していったのです。